

日本写真学会 第 29 回カメラ技術セミナー

2022 年 11 月 18 日(金) 10:00~16:35 東京都写真美術館

ver. 4

主催 (一社)日本写真学会 カメラ技術研究会
協賛 (一社)画像電子学会, (一社)日本印刷学会, (一社)日本画像学会,
(一社)日本オプトメカトロニクス協会, (一社)日本光学会 (順不同)
日時 2022 年 11 月 18 日(金) 9:30(受付開始) 10:00~16:35(セミナー)
会場 東京都写真美術館 1F ホール (〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内)
参加費 正会員・賛助会員・協賛学協会員 5,000 円 非会員(一般) 6,000 円
学生会員 1,000 円 非会員(学生) 2,000 円

申込方法 「日本写真学会第 29 回カメラ技術セミナー」ページの【参加申込】該当する参加区分を選択して参加登録 (Google Forms)に記入・送信した後に、「お支払い手続きへ」お進み、そこから参加費をお支払いください。
支払方法は、クレジットカード、ApplePay または GooglePay が利用できます。
※コンビニ決済についても現在準備中です。ご利用いただけるようになりましたらお知らせいたします。
「第 29 回カメラ技術セミナー」専用ページはこちら→ https://www.events.spij.org/events_top/22CTSeminar_infoA

申込締切 2022 年 11 月 11 日(金) まで延長します。
諸注意 セミナー会場における新型コロナウイルスの感染対策にご理解とご協力をお願いします。
新型コロナウイルスの感染状況により、開催方法及び内容が変更となる場合があります。
例年開催していた懇親会については、開催見送りとします。
講演テーマおよび講師については、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
本年度は紙の資料配布はありません。セミナー開催 1 週間前より参加者向けに pdf にて講演資料を公開します。
最新の情報は、日本写真学会ウェブサイト (<https://www.spij.jp/>) をご確認ください。

プログラム

10:00~10:10 開会挨拶

10:10~10:55 講演 1 感動の瞬間を切り取る OM-1 の開発

西原芳樹 氏 (OM デジタルソリューションズ)

OM デジタルソリューションズは、小型軽量システムによる高い機動力に高画質と高性能を兼ね備えたマイクロフォーサーズ規格準拠のミラーレス一眼カメラ「OM SYSTEM OM-1」を 2022 年 3 月に発売した。本機は、唯一無二の顧客体験を提供する製品である。本公演では、この次世代マイクロフォーサーズカメラ「OM SYSTEM OM-1」だけが実現できる世界について紹介する。

11:00~11:45 講演 2 EOS R3 視線入力システムの開発

山本英明 氏 (キヤノン)

2021 年に発売した EOS R3 で、キヤノンはおよそ 20 年ぶりに視線入力機能を搭載した。近年、特に発達した被写体検出技術や EVF による多彩な表示と組み合わせることで、より快適に、意図した被写体に対してピント合わせができるようになった。本講演では、EOS R3 の視線入力技術の特徴、技術概要について紹介する。

13:00~13:45 講演 3 HD PENTAX-D FA 21mmF2.4ED Limited DC WR の開発

小織雅和 氏 (リコーイメージング)

リコーイメージングは 2021 年 11 月に、HD PENTAX-D FA 21mmF2.4ED Limited DC WR を発売した。本製品は、超広角レンズでありながらポケ味にこだわるなど、一般的な広角レンズとは異なる個性的な特徴を持った製品となっている。本講演では、その開発背景や技術内容について紹介する。

13:50~14:35 講演 4 今後のスマートフォン用レンズの技術進化における一考察

岩隈志文 氏

スマートフォンに搭載されるカメラは、SNS の普及による影響やスマートフォン自体の価値向上のため、携帯電話の登場以来、その性能は日々進化している。一方で、QR コードなどの機能も付加されており、Tool としての利便性もアップしている。その進化の過程を整理するとともに、今後の技術展開について筆者の予想も交えて紹介する。

14:55~15:40 講演 5 針穴写真の楽しみ方

中島正己 氏 (日本針穴写真協会)

一般に「針穴写真」=「ピンボケ写真」というイメージが強い。確かにレンズを使用しないため解像度を上げることは難しい。しかし、その分カメラの構造は単純となり自作が可能となる。針穴写真の欠点を挙げればきりが無いが、その欠点を生かした表現方法を模索し、表現方法に合わせたカメラを作製し、撮影方法を工夫するなど、カメラ作りに始まり作品が完成するまで楽しむことが出来る。そのいくつかの事例を紹介する。

15:45~16:30 講演 6 被写体&コンセプト別の相原流機材選択

相原正明 氏 (写真家)

1.富士フィルム GFX100S による風景&建築 緻密立体感の表現 2.Nikon D6 による、超高感度、3D トラッキングを使った夜鉄 3.富士フィルム X シリーズ 電子無音シャッターが可能にした落語の撮影 4.LUMIX S1R ハイレゾ&L モノクロ D による硬質なモノクロ表現 5.富士フィルム ACROS II 銀塩フィルムならではの世界観 6.シグマ、タムロン、ツァイス レンズ表現を優先とした撮影スタイル

16:30~16:35 閉会挨拶

問合せ先 (一社)日本写真学会事務局 カメラ技術セミナー係
E-mail: info@spij.jp Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887